

CQ番号	CQ	経済的なCOI状況のため (個人あるいは組織)	非経済的なCOI状況のため
CQ4	小児にも成人と同様の治療は勧められるか？	福永 淳、田中暁生、千貫祐子、谷崎英昭、秀 道広、中原剛士	
CQ5	妊婦に抗ヒスタミン薬の使用は勧められるか？	福永 淳	
CQ6	授乳婦に抗ヒスタミン薬の使用は勧められるか？	福永 淳	
CQ9	慢性特発性蕁麻疹に抗ヒスタミン薬の増量は勧められるか？	福永 淳	
CQ19	慢性特発性蕁麻疹にシクロスポリンの使用は勧められるか？	福永 淳	
CQ20	慢性特発性蕁麻疹にオマリズマブの使用は勧められるか？	福永 淳	
CQ21	慢性特発性蕁麻疹にデュピルマブの使用は勧められるか？	福永 淳、田中暁生、千貫祐子、谷崎英昭、秀 道広、中原剛士	
CQ23	慢性特発性蕁麻疹の症状消失後に一定期間抗ヒスタミン薬の内服を続けることは勧められるか？	福永 淳	
CQ24	ステロイド外用薬の使用は蕁麻疹の症状出現を抑制するために勧められるか？	福永 淳、谷崎英昭、藤本 学、中原剛士	
CQ26	機械性蕁麻疹に抗ヒスタミン薬の使用は勧められるか？	福永 淳	
CQ27	寒冷蕁麻疹に抗ヒスタミン薬の使用は勧められるか？	福永 淳	
CQ29	日光蕁麻疹に抗ヒスタミン薬の使用は勧められるか？	福永 淳	
CQ31	コリン性蕁麻疹患者に抗ヒスタミン薬の使用は勧められるか？	福永 淳	
CQ33	特発性の血管性浮腫に抗ヒスタミン薬の使用は勧められるか？	福永 淳	
行動指針2.2	蕁麻疹の薬物治療では非鎮静性の第2世代抗ヒスタミンの内服を基本とする。	福永 淳	
行動指針2.3	通常量の抗ヒスタミン薬で効果不十分な場合は2倍量までの増量を行ってもよい。	福永 淳	
行動指針2.4	抗ヒスタミン薬は蕁麻疹の病型、内服方法（要時/継続）、内服期間、他剤相互作用、患者毎の効果と副作用、好み（費用、内服回数）などを踏まえて選択する。	福永 淳	
行動指針2.5	1剤の抗ヒスタミン薬で効果が得られない場合は他の抗ヒスタミン薬への変更を行ってもよい。	福永 淳	
行動指針2.8	抗ヒスタミン薬では症状の制御が不十分な慢性特発性蕁麻疹、アレルギー性の蕁麻疹、物理性蕁麻疹、コリン性蕁麻疹にはオマリズマブの皮下注射を行ってもよい。	福永 淳	
行動指針2.9	抗ヒスタミン薬では症状の制御が不十分な慢性特発性蕁麻疹にはデュピルマブの皮下注射を行ってもよい。	福永 淳、田中暁生、千貫祐子、谷崎英昭、秀 道広、中原剛士	
行動指針2.10	オマリズマブやデュピルマブは、個々の症例における治療の必要性、他の治療法の効果と、費用のバランスを踏まえて適応する。	福永 淳、田中暁生、千貫祐子、谷崎英昭、秀 道広、中原剛士	
行動指針2.11	ステップ2までの治療および患者の背景・悪化因子への対策を行っても症状を制御できず、かつ患者の生活上の支障が大きい場合は、シクロスポリン内服を行ってもよい。	福永 淳	
行動指針2.13	蕁麻疹ではステロイド外用薬の使用は避ける。	福永 淳、谷崎英昭、藤本 学、中原剛士	
行動指針3.1	薬物治療により症状が現れない、または少ない状態を続け、最終的に無治療で症状が現れない状態を目指す。	福永 淳	
行動指針3.2	症状の軽減ないし消失に伴い、負担の大きい治療薬から減量・中止する。	福永 淳、田中暁生、千貫祐子、谷崎英昭、秀 道広、中原剛士	
行動指針4.1	妊産婦・授乳婦の蕁麻疹はリスクとベネフィットを評価したのち、薬物治療が必要な場合は相対的安全性の高い抗ヒスタミン薬を使用する。	福永 淳	
行動指針4.2	小児の蕁麻疹は成人と同様の治療手順に沿って行う。	福永 淳、田中暁生、千貫祐子、谷崎英昭、秀 道広、中原剛士	